

社会科の学力の活用と充実を図った「総合的な学習の時間」の在り方 身近な地域の学習を通して

長門市立深川中学校 教諭 竹下 泰司

1 研究の意図

総合的な学習の時間については、中央教育審議会答申（平成15年10月7日）で、学校において具体的な目標や内容を明確にせず活動を実施している実態や、教科との関連に十分配慮していない実態等、改善すべき課題が数多く指摘された。これを受けて、同年12月には学習指導要領の改正が行われ、総合的な学習の時間のねらいとして、「各教科で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」が明確に示された。そこで、本研究では、社会科と総合的な学習の時間で、主要な題材として扱うことができる「身近な地域」を取り上げて、社会科で付けたい学力と総合的な学習の時間で付けたい学力を確認し、社会科の学力を基に総合的な学習の時間の充実を図る方策について、考察することにした。また、総合的な学習の時間で培ったそれらの学力が、どのように社会科の学習を充実させるかということについても探り、社会科と総合的な学習の時間の双方向的な関連についても考察する。

2 研究の内容

(1) 社会科と総合的な学習の時間を結ぶ「身近な地域」

ア 社会科と総合的な学習の時間の関連の中での身近な地域の学習の位置付け

身近な地域の学習は、学習の題材として社会科と総合的な学習の時間が重なり合う部分に位置すると考えられる。社会科における身近な地域の学習は、適切な課題を設けて行う学習で扱われることが一般的で、「調べ方」、「まとめ方」、「表現の仕方」を重視した指導を行うことで、問題解決能力の育成を重視している学習指導要領のねらいが達成できる。総合的な学習の時間における身近な地域の学習も社会科同様に、「調べ方」、「まとめ方」、「表現の仕方」を重視した指導を行うことにより、総合的な学習の時間の大きなねらいである生きる力の育成が達成できると考えられる。

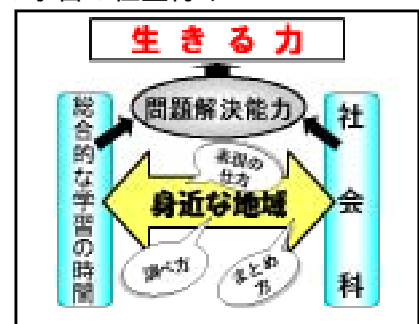


図1 地域学習の位置付け

つまり、身近な地域の学習は、図1のように、社会科と総合的な学習の橋渡しの教材ととらえることができる。

イ 身近な地域を学ぶ意義

新しい学習指導要領においては、学習内容が厳選されているにもかかわらず、地域にかかわる学習は重視される傾向にある。具体的には、地理的分野において「身近な地域」が大項目「地域の規模に応じた調査」の中項目として位置付けられるようになり、歴史的分野においては「歴史の流れと地域の歴史」が大項目として新たに付け加えられている。

社会科で身近な地域（長門市）を取り上げた際の、授業後の生徒の反応は、「これまで知

らなかった長門市のよさを発見することができて楽しかった」、「ふるさとを大切にしたいと思う」、「実際に見学したり、調べたりすることは大変だったけど、いろいろな調べ方で疑問が解決できてよかった」、「発表を聞くと、いろいろな調べ方があることが分かった」、「見方や考え方もそれぞれ違うことが分かって楽しかった」等であり、多くの生徒は肯定的にとらえていた。このように、身近な地域は、生徒の関心が高く、意欲的に学習活動に取り組むなど、学習の題材として大変有効である。

ここで、社会科と総合的な学習の時間において身近な地域を取り上げる意義を、学習指導要領などを参考に、表1のように整理する。

表1 身近な地域を学習する意義

<p>興味・関心の喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって身近な問題を扱うことができる。 ・自分の生活とのかかわりで考えることができる。 <p>学び方の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で直接確かめることができる。 ・観察や見学、調査の方法を身に付けることができる。 <p>感性や態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃触れ合うことのできない人に触れ合うことができる。 ・人とのコミュニケーションを広げ人間関係のネットワークをつくることができる。 ・地域社会の一員としての自覚をもつことができる。 <p>社会認識の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の原則を発見することができる。 ・社会的問題に対する価値判断をすることができる。
--

ウ 問題解決能力の育成と生きる力

総合的な学習の時間のねらいは、学習指導要領に「自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる」と述べられている。これを見ても、総合的な学習の時間では、問題を解決する能力の育成が重視されていることが分かる。

また、社会科の指導における内容の取扱いについて、学習指導要領には、生徒の主体的な学習を促し、課題を解決する能力を一層培うため、各分野において、適切な課題を設けて行う学習の充実を図るようにすることが述べられている。これは、これまでの社会科が知識の偏重に陥っており、この解消を今回の学習指導要領の改訂でめざしたものだと考えられる。さらに、

「3 改訂の要点」では、「社会科の特質を考慮して学習の過程を大切にし、問題解決的な能力を重視する観点から、『社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し』という文言を新たに付け加えている。」^{*1}とあるように、総合的な学習の時間と社会科でともにめざす学力は、問題解決能力であることがわかる。

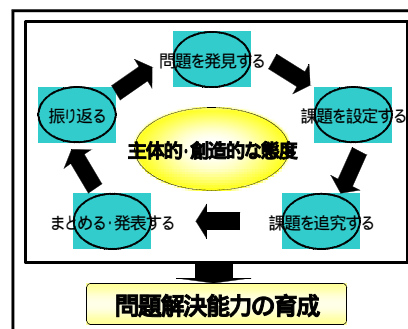


図2 問題解決能力の育成

問題解決能力とは、生徒が生活の中の疑問や問題点の中から自分で課題をつくり、その課題の答えを見付け出す方法を考え、必要な資料を収集・分析し、結論を出すまでの一連の能力をさし、今求められている生きる力の中核となるものである。そこで、この能力を育成するためには、図2に示すような学習活動を踏まえた指導を行うことが有効である。まず、社会全体を見渡したり、自分の生活を振り返り、様々な問題点や疑問点を発見し、これを基に、学習課題を設定して調査・観察等の追究活動を行う。次に、調査によって集めたデータをまとめ、その結果を発表し、最後に学習の振り返りを行う。この一連の学習活動の基盤になるのは、主体的・創造的な態度である。このような、学習活動を通して問題解決能力が育成される。これは、社会科における適切な課題を設けて行う学習だけでなく、総合的な学習の時間においても同様である。

(2) 社会科との関連を生かし地域学習を取り入れた総合的な学習の時間

ア 社会科と総合的な学習の時間で付けたい3つの学力

原籍校の1年生の総合的な学習の時間では、グループで地域調査活動を行う「やさしい町ふかわ体験活動」を実践している。この実践を振り返り、大きく2つの点に気付いた。

第1は、「探究に値する課題設定が十分ではない」ということである。生徒が設定した課題をみると「環境について」、「長門市の歴史調べ」等、漠然としていて何を調べるのか、どのように調べるのかが明確になっていない状態であった。これは、課題設定の際の支援が十分ではないことを示している。有意義な課題設定を行うには、生徒の着想を生かす教師の支援の工夫が求められる。

第2は、「課題に対する結論が明確に示されていない」ということである。その原因として、課題設定が確実に行われていないため、追究活動を十分に行うことができず、結果として結論を明確にすることができないということが考えられる。また、分かったこと、感じたこと及び考えたことを的確に表現させる指導も必要となってくる。

この2つの反省点を改善するために、社会科で育てた「調べる力」、「まとめる力」、「表現する力」を、総合的な学習の時間の課題設定・課題追究・課題解決の各学習段階において、発揮させることが大切である。

総合的な学習の時間でも活用される社会科の学力を充実させるために、歴史的分野と地理的分野において「調べる力」、「まとめる力」、「表現する力」の3つの学力を重視した授業展開を考えた。社会科の指導で適切な支援を行い、知識だけではなく、学び方を身に付けることで総合的な学習の時間における学習活動の充実が期待できる。

社会科の授業（地域学習）において、これら3つの学力を育成するために配慮すべき点は、次のとおりである。「調べる力」は、文献資料やインターネットだけではなく現地での調査や、地域の方々からの聞き取り調査等、多様な調査活動に取り組みさせることで高められる。したがって、フィールドワークの基本的技法については、事前に十分指導する。また、「まとめる力」は、収集した情報を吟味して課題解決に必要なものを選択し、これに対する自分の考えを明確にする活動を行わせることで効果的に伸ばすことができる。この際、友人との話し合いによる課題の追究を取り入れると、多様な意見を聞きながら自分の考えを明確にしていくことが可能になる。まとめ方は様々あるが、レポート形式や新聞の形式等が考えられる。さらに「表現する力」を伸ばすために、発表と討議の活動を取り入れる。実際の授業では、質疑応答を必ず行うようにする。また、「人に分かりやすく表現する」ことをポスターづくりや、発表を行

う際の指導のポイントとする。以上のような点に配慮した授業を行うことで、生徒たちは3つの学力を身に付けることができると考え、これを生かした社会科の学習指導案(表2・3)を例示する。

(ア) 身近な地域を扱った歴史的分野の学習の展開

歴史的分野では、地名の変遷をたどりながら長門市の歴史を学ぶ活動を通して、日本の歴史の流れも合わせて大観させる。また、日本の歴史の中に郷土の歴史の位置付けも行わせる。

生徒が、調査対象となる施設や地域に自ら出掛け、見学や聞き取り調査によって資料を集めることができるように支援する。また、生徒が収集した資料の中から、課題を解決するために必要なものを選択し、資料の丸写しではなく、自分の考えを加えながらレポートを作成するまとめ方を身に付けさせる(表2)。

表2 歴史的分野「地名の変化で時代の流れを追う」指導計画

次	学習内容	主 眼	主 な 学 習 活 動
1	課題との出会い	「深川郷・深川荘・深川村と呼ばれていた各時代の長門市はどんな様子だったのだろうか」という学習課題への関心を高め、解決のための見通しを立てることができる。	時代区分について調べ、時代の変化により、地名も変化していることを知る。 各時代を代表する長門市に関係のある歴史的事象(遺構)について、意見を出し合う。
2	仮説の設定と調査計画	各時代を代表する歴史的事象(遺構)を決め、その時代の様子について予想を立てることができる。 予想を基に、調査活動の計画を立てることができる。	自分が興味のある時代を選択し、時代ごとに4つのグループ(8班)を編成する。 小学校などでの学習を基に、各時代の様子を想像して、それを確かめるための地域調査を行う計画を立てる。 <調査対象> 古代...長門深川廃寺 中世...瑞雲山大寧寺 近世...捕鯨業・温泉の開発・萩焼深川窯 近代...水産業・鉄道開業・学校教育 (地域の変化を中心に調査)
3	調査活動に関するガイダンス	調査活動に関して、必要な技能やマナー、手順等を身に付けることができる。	インターネットの利便性や、利用時のマナーをはじめ、インタビューを実施する際の留意点等を考える。
4 5 6 7	調査活動	各グループの計画に沿って、協力をして調査活動をすることができる。 必要な資料を取捨選択しながら、情報収集を行うことができる。	現地調査を行い、書籍・インターネット・資料館での調査を裏付けるとともに、郷土史家やお年寄りの方々からの聞き取り調査も行う。 収集した資料を吟味し、自分たちにとって必要な情報を整理する。
8	意見の構築	調査結果の分析を通して、グループとしての意見をまとめ、分かりやすくまとめることができる。	調査活動の結果から、学習課題に対するグループとしての意見を構築する。 調査資料の丸写しではなく、自分たちなりの解釈や意見を入れながら分かりやすくまとめ、発表の準備をす

			る。
9	発表	学習課題に対する、各グループの考えを分かりやすく発表することができる。 発表に対する質疑応答を行うことができる。	自分たちのグループの考えを、聞く人に分かりやすく伝える工夫をしながら発表する。 自分たちのグループに対する質問に答えるとともに、他のグループの発表に対する質問を考える。
10 ・ 11	まとめ	これまでの学習内容を基にして、古代・中世・近世・近代の長門市の様子を各自でレポートにまとめることができる。 レポートにまとめる作業を通して、地域の歴史を大観することができる。	各時代の長門市の様子を端的に表すレポートを作成する。 時代の流れを大観し、それぞれの時代の特色をまとめる。

(1) 地域調査を取り入れた地理的分野の学習の展開

地理的分野では、長門市の地域ごとの人口増減率の差が生じる原因を究明する活動を通して、長門市の地理的な特徴を理解させる。また、人口の増減という社会事象には、様々な要因が複雑に関連していることを学ばせる。

仮説を設定して、仮説を実証するために必要な資料や調査方法についての見通しを立てて、調査活動を行うという調べ方の手順を、生徒が身に付けることができるように支援方法を工夫する。また、グループごとに意見交換を行い、グループとしての意見をまとめる手法を学習するとともに、聞く人に分かりやすく発表ができるように発表方法を工夫させる。このような活動を通して、生徒に発表方法を身に付けさせる（表3）。

表3 地理的分野「ふるさと長門市をもっと知ろう」指導計画

次	学習内容	主 眼	主 な 学 習 活 動
1	長門市の特色	「1955年以降、長門市全体の人口は減少しているが、増加している地区があるのはなぜか」という学習課題を解決するための見通しを立て、長門市全体を大観することができる。	小学校での学習や、生活経験から長門市に関する認識を出し合う。 人口に関する情報を互いに出し合う。
2	地形図の読みとり (1)	地形図を活用して、長門市の特色を大観することができる。	長門市・大津郡の5万分の1の学習用地形図を活用し、他市町村との境界線や、河川、低地などの地形や鉄道、道路、市街地、農地などの土地利用の概要を読みとる。
3	地形図の読みとり (2)	地形図の決まりに従って、地形図を読みとり、活用することができる。	長門市・大津郡の5万分の1の学習用地形図から、方位・距離・等高線・地図記号などを具体的に読み取る。
4	仮説の設定と調査計画	学習課題について、地理的要因を基に仮説を立てることができる。 仮説を実証するための調査活動の、計画を立て	これまでの学習を基に、自分のつくった仮説とその根拠が適切であるかについて検討する。 仮説を実証するために必要な資料や、調査方法などに

		ることができる。	ついて見通し、調査活動の計画を立てる。
5 ・ 6	調査活動	学習課題を解決するために、自分が立てた計画に沿って調査活動を行うことができる。	各自の計画に沿って、調査活動を行う。 (聞き取り調査などは必要に応じてグループで行うこととする。)
7	意見の構築	調査結果を基に、課題に対する自分の考えをまとめることができる。	自分が収集した資料を基に、課題に対する自分の考えをまとめ、発表できるように準備をする。
8 ・ 9	グループ内の発表・ ・ 討論活動	発表・討論活動を通して、他の意見にも耳を傾け、自分の考えを一層深めることができる。	同じような仮説を立てた生徒同士でグループを作り、自分の考えを発表する。 グループとしての考えを形成するために討論を行い意見を絞り込む。 全体発表に向け、グループで準備を行う。
10	全体発表	学習課題に対する、グループとしての考えを分かりやすく発表することができる。 発表に対する質疑応答をすることができる。	グループの考えを、聞く人に分かりやすく伝える工夫をしながら発表する。 自分たちのグループに対する質問に答えるとともに、他のグループの発表に対する質問を考える。
11	まとめ	前時に発表された、各グループの考えを図式化して整理し、学習課題に対する自分の結論を出すことができる。 長門市の地理的な特色について認識を高めることができる。	前時の発表をA4用紙1枚に図式化して整理し、学習課題に対する結論を出す。 長門市の地理的特色をまとめる。
12	人口増減の要因	人口が増加・減少する背景には、どのような要因があるのかを考えることができる。 人口増減の背景を理解し、長門市の今後の人口動態についての予測をすることができる。 他地域との比較を通して、人口増減の要因を一般化することができる。	人口の増減にかかわる、様々な要因をあげ、その妥当性を考察することができる。 今後の長門市における人口動態についての予測を立て、理想的な人口および、分布を考える。 他地域の資料を見て、人口の増減にかかわる要因を広い視野に立って考える。

イ 総合的な学習の時間における身近な地域の指導の工夫

問題解決的な学習は、課題設定 課題追究 課題解決の3つの段階で進めることが一般的である。これは、社会科にも総合的な学習の時間にも共通する。社会科で身に付けた学び方は、総合的な学習の時間を支える基礎的な学力となり、総合的な学習の時間で高まった学力が、社会科の学習の充実に効果を発揮する双方向的な関係になる。前述の反省から、総合的な学習の時間の3つの学習段階のそれぞれにおいて、教師が行うべき具体的な支援をまとめたのが図3である。この中で特に重視したいのは、課題設定段階である。その理由は、総合的な学習の時間のねらいに「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。」^{*2}とあり、既存の教科との大きな違いは「自ら課題を見付ける」という点で

あると考え、自らの力で適切な課題設定を行うことが重要であると考えたからである。

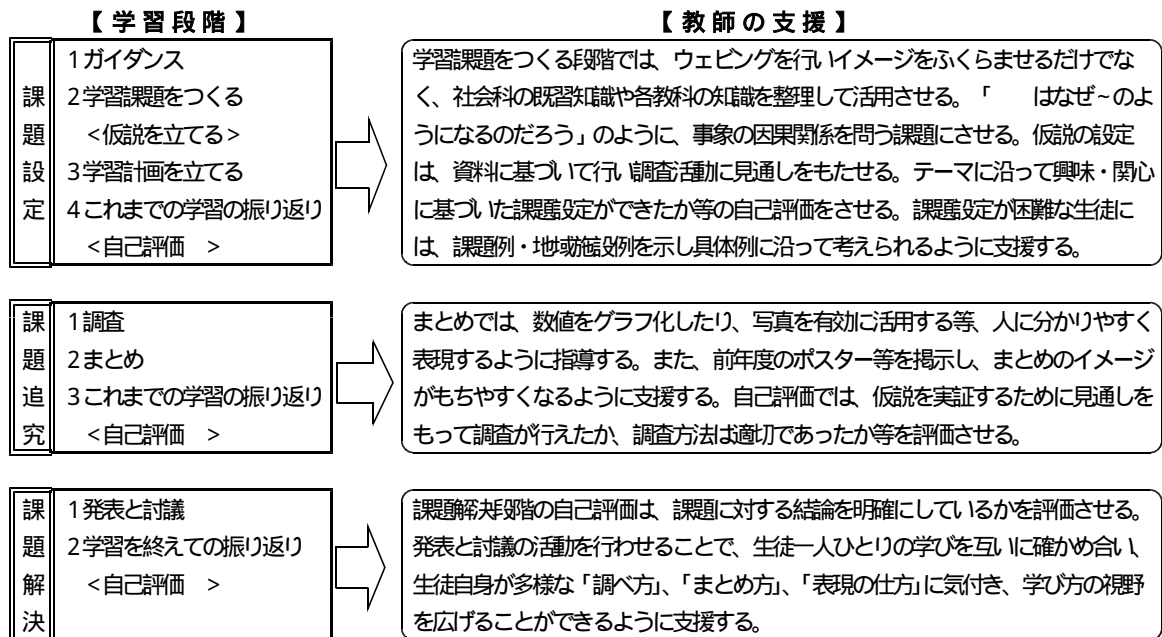


図3 学習段階における教師の支援

学習課題として成立するための必要な条件を、次のように3点考えている。第1は、なぜそのような課題を設定したのか理由が明確に言えること。第2は、調査活動について、「何で調べるのか」、「どこで探すのか」等の手段や手だて、素材がきちんと考えられていること。第3は、一連の学習活動を追究する「時間」が確保されていることである。課題が多過ぎて、あるいは大き過ぎて、決められた時間内でできないのでは課題として不適である。逆に課題が少な過ぎ、あるいは小さ過ぎて時間が余ってしまうような課題も、課題としては不十分であるため再検討する必要がある。

教師がこれらの3点を踏まえた適切な支援を行うことで、生徒の課題設定にかかわる能力の向上が期待できると考えた。その理由は、課題設定をする際に重要なことは、生徒が調査の手段や場所を事前に把握していることや、なぜその課題を設定したのかを明確にしていること等、学習に対する見通しを確実にもっていることだからである。そこで、課題設定の際の支援の在り方について以下に述べることにする。

(ア) 主体的な課題設定をさせるための支援

学習課題を設定する際に用いるウェビングとは、教師の支援を受けながら生徒が主体的に課題をつくっていくもので、生徒の興味・関心に基づき、クモが巣を張るように課題を広げ、学習活動を計画していく手法である。その利点は、課題設定に至るまでの生徒の様子を、教師が把握しやすくなることにある。そのことで、一人ひとりの生徒に対するより適切な支援が可能になる。

つまり、教師からの示唆はあるものの、生徒の立場からすれば、学習の主体は自分たちであり、自分で設定した課題を追究していくという学び意欲をもつことができる。そのため、ウェビングの手法を用いることにより、社会科や他の教科で学んだ知識や体験活動で身に付けた技能等を整理して活用し、生徒自身の手で追究するに値する課題を設定することが可能となる。

(イ) 追究するに値する課題設定をさせるための支援

教師は、生徒が総合的な学習の時間において、追究するに値する課題設定を行うことができるように支援をする必要がある。そのためには、事象と事象の因果関係を問う型の課題にさせることが重要である。

これまでの実践を振り返るとき、課題設定の難しさを痛感することがしばしばあった。生徒だけで課題を考えさせると、「長門市の歴史について」あるいは「リサイクル」等、何をどのように調べるのかが明確ではない課題になることが多かった。このように、「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」等、ある一つの事象について詳しく調べる「について型の課題」は、系統的な知識の集積という観点からすれば有効であると考えられる。しかし、このような課題は、個別の事象に関する知識が増えるのみで、生きる力の育成をねらいとする総合的な学習の時間にふさわしい課題とは言い難い。

そこで、収集した資料に基づいて仮説を立て、「なぜ」という疑問に基づき事象と事象の因果関係を探究する「なぜ型の課題」が有効だと考えた。このような型の課題は、ある事象が起こった原因と結果について調査する

表4 自己評価表

ことになる。これらを結び付けているのは、例えば経済的法則等の一般的知識である。それら一般的知識は生徒が学習した特定の事象の説明のみに当てはまるのではなく、類似した他の事象の説明にも用いられる、転移可能な知識となる。よって、このような型の課題を設定させる意義は大きい。

また、なぜ型の課題設定の前段階では、比較するという視点も有効であると考ええる。その理由は、同じ種類のものや事象を比較してそこに違いがある場合、それはなぜかというなぜ型の課題設定に結び付くからである。生徒の実態に合わせて、このような視点を生かした課題設定も取り入れていく必要がある。

仮説設定は、単に思いつきの予想ではなく、資料に基づいて行うべきである。

課題設定の段階のめあて	(1) テーマの中から興味・関心をもとに自分なりの課題をつくらう。 (2) グループの人と協力をして課題を深めよう。 (3) 課題について自分なりの予想を立てよう。
<p>これまでの学習を振り返って、あなたの学習活動はどのようでしたか。下の～の項目について当てはまる記号を選んで、印を付けるか、文章で答えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> A はい B どちらかと言えばはい C どちらかと言えばいいえ D いいえ </div> <p>自分の調べたいことがはっきりしていますか。 A B C D</p> <div style="text-align: right;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> <p>自分が設定した課題を書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>なぜそのような課題を設定したのか、具体的に説明しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div> <p>課題について自分なりの予想をもとに、調べる計画を立てることができましたか。 A B C D</p> <div style="text-align: right;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> <p>次の時間からやることがはっきりしていますか。 A B C D</p> <div style="text-align: right;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> <p>グループの人と協力して学習が進められていますか。 A B C D</p> <div style="text-align: right;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> <p>この学習に興味もてそうですか。 A B C D</p> <div style="text-align: right;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> <p>_____先生から_____</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	

社会科の授業の問題解決学習を行う際にも、仮説設定は必ず資料に基づいて行わせるようにしている。その理由は、課題に対する見通しがもちやすくなるからである。生徒の中には課題を決め、すぐに調査活動に入り、しばらくすると立ち往生してしまう者が少なくない。そのようなことを防ぐために、資料を集め、仮説を立て、それを友人と討議し、友人や教師の意見を参考に検討し、必要であれば再び仮説を立て直すという一連の活動が必要とされる。

資料に基づいての仮説設定を行うことで、「どのような資料・データで調べるのか?」「どこで探すのか?」等の手段や手だてを考える必要に迫られるため、学習に対する見通しをもちやすくなる。そうすることで、調査活動の計画も比較的スムーズに立てることができ、効率的な調査活動を行うことができる。

(ウ) 振り返りをさせるための支援

各学習段階の最後には、自己評価活動を必ず行うことにする。その理由は、生徒自身が自分の学習を振り返り、学習活動の改善を行ったり、必要であれば軌道修正をしたりすることを可能にするためである。生きる力を育むことをねらいとしている、総合的な学習の時間において重要となるキーワードは「自ら」であり、問題を解決していく過程における主体も「自ら」である。そこで、生徒は自分自身で学習活動を振り返りながら、修正を加えつつ学習を展開していく主体者になる必要がある。そのためにも、自己評価の活動は不可欠であると考え、各学習段階ごとの自己評価表を作成した(表4は課題設定段階の自己評価表)。

このように、自分で自分の学習を振り返る活動を通して、生徒たちは自己の成長を自覚することができる。自分自身で成長を自覚することで、自己肯定感、自己有用感、自己有能感をともない生徒たちの「学ぶ意欲」が高まると考える。生徒が学習の主体となるべき、総合的な学習の時間の場合には、特に学ぶ意欲の高まりが不可欠であり、生徒の内面から意欲を高めるためにも複数回の自己評価活動を取り入れることが必要である。さらに、支援をする教師の立場からすれば、生徒の学習の状態をよりの確に把握することが可能となり、一人ひとりの生徒に合わせた適切な支援を行うために、生徒の自己評価活動は有効である。

また、評価表の「先生から」の欄は、一人ひとりの生徒に対して適切なアドバイスをを行い、学習の状況によって意欲付けをするために活用する。

(3) 「やさしい町ふかわ体験活動」の指導計画

これまで述べてきた考え方に基づき、実際に総合的な学習の時間の計画を作成した。表5は、第1学年の総合的な学習の時間の年間計画である。知の総合化を実現するためにも社会科だけではなく、他の教科や道徳・特活との関連を明示し、総合単元化をめざしたものである。表6は、「やさしい町ふかわ体験活動」の単元の指導計画である。この単元指導計画の中から、具体的な支援として3点を取り上げることにする。

ア ガイダンスによる支援

本単元において、ガイダンスは2回行うことにしている。その理由は、単元のねらいや実際の活動内容を生徒に十分理解させることにより、意欲をもって学習に取り組ませるための動機付けが重要だと考えたためである。

1回目のガイダンスでは、教師が本単元の目標や学習の概要を説明することにより、学習の見通しをもちやすくすることが大切である。また、可能であれば2年生に、1年生の時の実際の活動内容や成果を発表させることが、より効果的である。

2回目のガイダンスでは、福祉・文化・環境の分野における専門家の方から、それぞれの分

野についての概要を話してもらおう。その際に、事前にアンケートを実施し、生徒たちの質問を先方に伝えておくと、より効果的な時間となる。

表5 総合的な学習の時間 年間計画*3

FTテーマ：生き方を見つめ、今、そして将来どう生きるか～「知の総合化」をめざして～				
育てたい力：豊かな生き方を追求する力 よりよく生きるための「確かな学力」				
学年テーマ：自分を広げる ～課題の解決や多くの人たちとの関わり合いを通して、自分を広げる～				
月	道徳・特別活動等	FTの課題・学習内容	教科・選択教科	保護者・地域との連携
4	(学活)中学生になって			学年通信(通年)
宿泊体験学習(秋吉台)				
5	(学活)宿泊体験学習の計画「生活の充実と向上」	ガイダンス 集団宿泊のきまり 班別研修の計画と実践	(理)身近な自然・地層	関係機関との打合せ
6	生徒総会に向けて「自分たちの課題発見と解決」	学習のまとめと発表 ・ポスター ・学年集会 自己評価・相互評価	(国)レポート作成 (社)身近な地域調査	
やさしい町ふかわ体験活動				
7	(学活)私たちの将来の希望「進路の適切な選択」	ガイダンス 事前学習(講演会) 課題設定 仮説を立てる 学習計画づくり 事前準備		依頼・打合せ・礼状 (各体験・訪問先)
9	(学活)福祉関係VTR「障害者等さまざまな人権課題」	調査・体験活動(2日間)	(社)身近な地域の歴史 (理)環境の保全	
10	(道徳)社会連帯の精神「かけ合うひと声の大切さ」	学習のまとめと発表 ・コンピュータ、ビデオ編集、寸劇、描画 演奏、調理、実物作成、ポスター、OHP 活用等 ・文化祭	(数)統計処理・グラフ作成 (技)情報機器の活用	
11	(道徳)人間愛「二度と通らない旅人」	自己評価・相互評価	(音・美)美しい表現	
	(道徳)郷土愛「橋を架ける心」		(各選択教科)課題の発見・解決	
校内意見発表大会				
12		学級意見発表大会 全校意見発表大会 (地区意見発表大会)	(国)意見文の書き方	
進路(生き方)を考える				
1	(道徳)世界平和・人間愛「ヒマラヤの子ども」	職業調べ 自己理解・適性検査 職業講話 将来の計画		ゲストティーチャー講話
2	(学活)集団や社会の一員として「生き方・学業・健康」	進路適性検査		ロータリークラブ
3	(学活)エンカウンター「じゃがいも君とお友達」			進路相談

表6 「やさしい町ふかわ体験活動」指導計画

段階	時間	学習活動	教師の支援
課題設定 単元のガイダンス	1	1 ふるさとふかわを見つめよう ・「やさしい町ふかわ体験活動」の目標や概要を把握する。 ・前年度の研究成果を見ることで、身近な地域を対象にした学習活動への意欲をもつ。	・プレゼンテーションソフト等を活用して今年度の「《やさしい町ふかわ》体験活動」の概要を説明し、学習に対する見通しが立ちやすいようにする。前年度の取組みや発表の仕方についても紹介する。
	1	2 ふるさとふかわを知ろう ・個人の興味や関心に応じて、3分野から1つを選択して講演を聞き、質問をする。 長門市社会福祉協議会 長門市環境対策室 長門市文化財係	・長門市の福祉・環境・文化分野における現状について、それぞれの専門家の方からの話を聞き、「調べたい・知りたい」という意欲を引き出す。
	(各教科の時間において)	3 各教科の授業でふるさととその学び方を学ぼう ・各教科領域において身近な地域に関する様々な題材と出会い、知識及び「調べ方」、「まとめ方」、「表現の仕方」を身に付ける。 (国語...レポート作成 社会 身近な地域調査・身近な地域の歴史 数学...統計処理・グラフ作成 理科...身近な自然・地層・環境の保全技術・家庭...情報機器の活用(コンピュータ操作の基礎)・郷土料理 道徳...「かけ合うひと言の大切さ」:社会連帯の精神 学級活動...「進路の適切な選択」:私たちの将来の希望、「障害者等様々な人権課題」:福祉関係VTR)	・各教科等においてテーマ「身近な地域」に関する学習を可能な限り集中的に行う。 ・地域の人材とのTTや体験的な学習等、教科の特性に応じて取り入れる。
課題をつくる	8	4 やさしい町ふかわ体験活動の学習課題を決定しよう ・これまでの学習を基に、自分の調べてみたい学習課題をつくる。 -----【予想されるテーマ】----- ごみ問題 リサイクル 河川の汚染 水生生物 大気汚染 風力発電 温泉 大寧寺 祭り 飯山八幡宮 くじら 金子みすゞ 深川中の歴史 昔の遊び 特産物 萩焼 保育園・幼稚園 介護 老人福祉 障害者にやさしいまちづくり	・ウェビングを行い、社会科や他教科の既習知識を活用したり、整理したりしやすくする。 ・個人で考えた学習課題が内容的に近い生徒で学級を越えて「内容グループ」を編成し、専門性を考慮しながら担当教師を配置する。 ・学習課題をつくるのが難しい生徒には、これまでの学習成果の活用をアドバイスする。
仮説を立てる		・グループごとに課題について仮説を立て、その根拠を明確にする。	・調査グループごとに学習課題を決め、課題に対する仮説を根拠を明確にして立てるようにする。 「だから××となるのではないだろうか」 課題を検討 仮説の設定 仮説の討議 学習課題の決定 課題設定の4つのステップ
学習計画を立てる 学習を振り返る		・課題追究の方法を検討し、調査・訪問計画を作成する。 ・ここまでの学習を振り返る。	・「調べ方」の見通しをもちにくいグループには努めて声をかけ、相談に乗るようにする。 ・自己評価に基づいて、今後の学習の見通しを立てやすいようにする。

<p>課題追究</p> <p>調べる</p> <p>まとめる</p> <p>学習を振り返る</p>	<p>17</p>	<p>5 やさしい町ふかわ体験活動の学習課題を調査しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集すべき資料や調査・訪問先を決定する。 ・質問事項を決定する。 <p>・電話によるアポイントメントや、依頼文作成など、調査・体験活動を実施する準備をする。</p> <p>・2日間の体験活動を行う。(12時間)</p> <p>・調査活動の成果を整理し、まとめて発表方法を検討する。</p> <p>・ここまでの学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・訪問計画を見て、計画が不十分なグループには調査方法を助言して、多様な「調べ方」ができるようにする。 ・文献や統計資料、インターネットによる調査は体験活動の前までに終えるようにする。 ・体験活動の計画を確認する。 体験活動で何を確かめ、そこに行かなければ調べられないことが課題解決の方法として適切か ・電話や依頼文の書き方は、個別指導を取り入れ、十分に時間をとる。 ・生徒が調査・訪問先に連絡を取った後、各担当教師が活動の趣旨や内容を説明して承諾を得る。 ・「見る人や聞く人に分かりやすいまとめ方」についてのポイントを説明する。 ・まとめ方のイメージをもちやすくするために、前年度のポスター等の作品を掲示する。 ・自己評価に基づいて、今後の学習の見通しを立てやすいようにする。
<p>課題解決</p> <p>発表と討議</p> <p>学習を振り返る</p>	<p>8</p>	<p>6 やさしい町ふかわ体験活動の学習成果を発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望する発表方法が近い生徒同士でグループをつくる。 <p>----- 【発表方法の例】 -----</p> <p>コンピュータ活用 ビデオ編集 寸劇 描画 演奏 調理 OHP活用 ポスター 実物作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備をする。 ・学習発表会を行い質問・意見交換を行う。 <p>・やさしい町ふかわ体験活動の学習を振り返って自己評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・得意分野を考慮して「方法グループ」の担当教師を配置する。 ・「表現の仕方」の見通しがもてにくいグループには細やかに声をかけ、相談に応じる。 ・学習プリントを利用して「調べ方」、「まとめ方」、「表現の仕方」の工夫に着目できるようにするとともに、質問や意見を出しやすくする。 ・学習活動の全体を振り返って、自己の成長を実感できるようにする。

イ 課題設定サポートシートによる支援

課題設定が困難な生徒の中には、ウェビングを行っても学習に対するイメージが明確にできない生徒の存在が想定される。そこで、このような生徒に対しては、表7のような課題設定の補助資料(課題設定サポートシート)を提示する。課題づくりに結び付きやすいように、それらの言葉のイメージをふくらませていけば、課題づくりのキーワードになる語句を取り上げた。

また、その上で課題を解決していくための、参考となる長門市内の施設や団体の主なもの名称を載せた。これらの施設等の中で、特に生徒にとって分かりにくいと思えるものについては、補足説明をした。このように、課題設定が困難な生徒に対する支援は、こうした資料を基に、一人ひとりの生徒と対話をしながら、できるだけ生徒が自主的に課題設定できるように支援していく

ことが大切だと考える。

ウ グループ編成による支援

「やさしい町ふかわ体験活動」は基本的には、生徒一人ひとりが自分の設定した課題を追究し、自分なりに解決する活動である。しかしこの単元では課題をつくる場面と、発表の準備をする場面の2度グループを編成して、グループ活動を通して学習の深化・充実にめざすことにした。グループは学級の枠にとらわれず、それぞれの活動に適した編成を行い効率的な活動ができるようにする。

課題をつくる場面では、学習課題が内容的に近い生徒により、内容グループを編成する。仮説を立てた後の討議活動を内

容グループ単位で行わせることにより、多様な見方や考え方を取り入れながら、自分の考えを見直すことができる意義は大きいと考える。また、資料やデータをグループで協力して、収集することができるということも利点の1つである。

発表の準備を行う場面では、生徒が希望する発表方法ごとに、方法グループを編成する。ポスターの作成だけでなく、プレゼンテーションソフトを用いた発表等、多数の発表方法の中から自分の調査結果を表現するのに最もふさわしいと考える方法を、生徒自身が選択して決定する。このような方法をとることにより、同じグループで話し合ったり、作業を協力して行ったりする等が可能となる。

表7 課題設定サポートシート

分野	課題づくりのキーワード例	関連する施設・団体等
環境	気候 地形 地質 河川 地質 化石 植物 動物 昆虫 森林 海・海岸 公害 ゴミ リサイクル 酸性雨 発電 農業 水産業 林業	海上保安部 森林組合 下水処理場 ゴミ処理場 リサイクルセンター 土木事務所 広域行政組合 水産研究センター 環境対策室 J A 長門大津 地方卸売市場 湊漁協 森林組合
文化	水産加工業 商業 工業 道路・鉄道(交通) 人物 ケーブルテレビ 新聞社 住居 文化財 史跡 民話・伝承 方言 伝統芸能 伝統行事 祭り 伝統工芸 伝統玩具 風俗 郷土料理 文学(金子みすゞ) 企業誘致 観光 観光開発 特産品 名所 イベント 地域開発 日韓交流	深川養鶏農業協同組合 J R 長門市駅 サンデン交通 防長交通 図書館 ほっちゃテレビ 山口新聞 長門時事 水産研究センター 土木事務所 農林事務所 商工会議所 公民館 観光協会 商工観光課 文化ホール(ルネッサ門) 文化財課 鯨墓 金子みすゞ記念館 大寧寺 飯山八幡宮 早川家住宅 湯山南祭踊り保存会 赤崎神社楽踊保存会 依山女歌舞伎保存会 通鯨唄保存会 湯山秋焼窯元 企画振興課 観光協会 青年会議所
福祉	障害者福祉 高齢者福祉 児童福祉 上下水道 医療 ゴミ処理	建設課 都市計画課 健康福祉センター 環境対策室 下水道課 水道課 社会福祉協議会 特別養護老人ホーム 心身障害者福祉作業所 シルバー人材センター 保育園 福祉事務所

<分かりにくい施設等の説明>

施設等の名称	施設や事業内容に関する説明
海上保安部	治安の維持(密輸入・密入国等)、海難救助、海上環境の保全(クリーン作戦)等が主な業務内容である。
土木事務所	道路の新設や維持管理、河川の整備、公園や街路樹の維持管理等が主な業務内容である。
農林事務所	農業及び農村の振興のために、農地の整備、農業用水の確保、地域活性化支援等を行う県の機関である。農業技術の普及指導や、地域グループの自主的な活動を支援する。
水産研究センター (水産資源調査センター)	水産業及び漁村の振興のために、観測活動、種苗放流等を行う県の機関である。海洋資源を調査したり、水産加工技術の研究を行ったり、栽培漁業や養殖業に関する調査研究を行う。
シルバー人材センター	高齢者が働くことを通じて、収入を得るとともに、健康を保持し、生きがいをもち、地域社会に貢献するためにつくられた組織である。
森林組合	森林所有者が互いに共同して林業を發展させ、組合員の経済的・社会的地位の向上をめざし、森林を守り育てることを目的としている。
青年会議所	若い人が集まって、地域社会に奉仕することを目的とした組織である。長門市では、中学生の百韓親善交流や、新しいまちづくりのためのイベント、ボランティア活動等を行っている。
商工会議所	商工業者の利益を守り、社会福祉の増進を進めることを目的としている組織である。交通・労働・地域開発等に関して要望を行う意見活動や社員の教育訓練を行う指導事業等を行う。
地方卸売市場	長門大津地域で生産された野菜・青果が一括して卸される(売買される)、地産・地消の取組みも熱心に行い、「長門プレッシュ野菜」の普及にも努めている。JAの関連施設である。
広域行政組合	複数の市町村が行政の効率化をめざして、諸事務を共同処理するための組織である。現在、消防に関する、し尿処理及びゴミ処理に関する事務を行っている。

このように、内容グループ・方法グループを編成して行う活動については、その編成が学級の枠にとらわれないため、学年担当の全教員（6～7名程度）で支援にあたることが可能となるというメリットがある。そうすることで、各グループの課題と教師の担当教科等の専門分野との関連を考慮して、教師の分担を決めることができるため、より専門的で深まりのある課題設定ができる。発表の準備を行う場面でも、同様である。つまり、コンピュータや工作等、教師の得意分野を生かした支援が可能となる。以上のことから、生徒の課題や発表方法を考慮することで、より適した教師を担当とすることができ、生徒の学習活動への支援を一層充実できる。

3 まとめと今後の課題

総合的な学習の時間の大きなねらいに、問題解決能力の育成がある。その育成のためには、総合的な学習の時間の各学習段階で、社会科で身に付けた知識だけでなく「調べる力」、「まとめる力」、「表現する力」を活用した学習にすることが有効である。社会科で身に付けた知識や技能、学び方を総合的な学習の時間で実際に活用することで、社会科での学びが一層深められ、有意義なものになる。

本研究は、「身近な地域」を、社会科と総合的な学習の時間の共通の題材として、授業計画や、生徒への支援について研究を行ってきた。しかし「身近な地域」だけでなく、「環境問題」、「国際理解」等、総合的な学習の時間で扱う題材の中には、社会科と関連を図りながら学習を進めることで、一層充実した学習となる可能性をもったものも存在する。そこで今後は、地理的分野の学習と環境問題や、公民的分野の学習と世界平和をめざす国際交流の在り方などの学習教材を開発するとともに、授業実践を通して、生徒に対する具体的かつ効果的な支援の在り方について、研究を行っていききたい。

【引用文献】

*1：文部省 『中学校学習指導要領(平成10年12月) 解説 - 社会編 - 』 2004 p 8

*2：文部科学省 『中学校学習指導要領』 2003 p 3

*3：『平成16(2004)年度総合的な学習(ふかわタイム = F T)総合単元化構想』を参考に作成。

【参考文献】

高山博之・坂井俊樹・竹内裕一編著 『中学校総合的な学習と社会科』 日本文教出版株式会社 2000

玉井康之 『学社融合時代の学校・行政の役割 地域に学ぶ「総合的な学習」』 東洋館出版社 2000

奈良教育大学附属中学校著 『学力がつく総合的な学習の構築』 明治図書 2004

岡山県教育センター 『中学校における地域学習に関する研究 社会科から総合的な学習の時間への発展』
研究紀要第222号 2001

文部省 『中学校学習指導要領(平成10年12月) 解説 - 社会編 - 』 1999

文部省 『中学校学習指導要領(平成10年12月) 解説 - 総則編 - 』 1999

文部科学省 『中学校学習指導要領』 2003

【参考web】

日本文教出版 <http://www.nichibun-g.co.jp/library/sei-kyoshitsu/020/s200104.htm>